

2017年10月26日 全6頁

中国：「ポスト習近平」は習近平？

経済政策面では劉鶴氏が重要な役割を担う可能性

経済調査部
主席研究員 齋藤 尚登

[要約]

- 2017年10月18日～24日に開催された中国共産党第19回全国代表大会（党大会）は、最終日に党規約の修正案を承認し、「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」が、行動指針として明記された。習近平氏は現指導部の中で別格の扱いとなる。一方で、注目されていた「党主席」ポストの復活はなかった。
- 10月25日に開催された第19期中央委員会第1回全体会議（一中全会）で、新指導部が選出された。「ポスト習近平」の不在は、今後、習近平総書記が内規の引退年齢引き上げを根回しし、3期目続投を図るための布石であるのかもしれない。
- 2018年3月の全国人民代表大会（全人代）で国务院（内閣）の人事が確定する。経済面で注目されるのは、習近平総書記の経済ブレーンである劉鶴氏の処遇である。中国共産党は2013年11月に、今後の改革の青写真を発表した。これは劉鶴氏が起草の中心メンバーであったとされる。青写真では、過剰生産能力と新規債務増加の抑制、さらには人々の健康状態を政績（政治的な成績）表評価項目の重点として新たに加え、持続可能な成長を目指した政策を打ち出すなど、ポジティブに評価できる面も多かった。劉鶴氏が今後、どのような役割を担い、政策を実行していくのか、大いに注目されよう。

習近平思想を党規約の行動指針に明記。「党主席」ポストは復活せず

中国共産党第19回全国代表大会(党大会)が、2017年10月18日～10月24日に開催された。最終日に中央委員204名と中央候補委員172名を選出し、党規約の修正案が承認された。今回の党規約の修正により、習近平総書記の指導思想である「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」が、行動指針として明記された。党規約は党の最高規則であり、その行動指針に明記されることは特別な意味を持つ。従来 of 行動指針は、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「3つの代表」重要思想、科学的発展観であった。江沢民・元総書記の「3つの代表」重要思想、胡錦濤・前総書記の科学的発展観は、退任直前の党大会で党規約に行動指針として明記されたことからすると、2期目に入るこの時期での明記は、まさに別格の扱いであるといえる。個人名が冠されたことで、毛沢東氏、鄧小平氏に並び、理論と思想では思想が格上とされることからすると、毛沢東氏と同等の権威が確立されたことを意味する。

一方で、注目されていた「党主席」ポストは復活しなかった。総書記と党主席はどう違うのか?前者は「取り纏め役」的なニュアンスである一方で、後者は「別格」という意味合いが強い。「党主席」ポストは1945年に設置され、毛沢東氏が1976年に没するまでその地位にとどまり、1982年に廃止された経緯がある。「党主席」で連想されるのは毛沢東氏であり、その晩年には文化大革命という大混乱が生じた。これは毛沢東氏が権力に固執したことが要因の一つであり、そのトラウマもあって権力の永続化につながり得る「党主席」ポストの復活には反発が大きかったのであろう。

王岐山氏は再任されず。陳敏爾氏は政治局員止まり

2017年10月25日に開催された第19期中央委員会第1回全体会議(一中全会)で、新指導部が選出された。

最大の焦点であった王岐山氏は政治局常務委員に再任されず、中央委員からも外れた。現在69歳の王岐山氏は中央紀律検査委員会書記として反腐敗・汚職の陣頭指揮を執り、習近平総書記の権力基盤固めに多大な貢献をした。このため、習近平総書記は王岐山氏の留任を強く望んだとされるが、「七上八下」(党大会時に67歳以下は指導部入りする可能性があるが、68歳以上の人物は引退)という中国共産党の内規が厳格に適用された格好となった。王岐山氏の続投は、5年後に69歳となる習近平総書記の3期目続投の布石となり得るため、それに反対する声が大きかったのであろう。

ただし、王岐山氏が完全に引退となるかは未だ分からない。周小川・人民銀行総裁は2012年11月の第18回党大会で中央委員から外れ引退確実と目されていたが、2013年3月に政治協商会議副主席に就任し、異例の続投が決まった経緯がある。王岐山氏は反腐敗・汚職に辣腕を揮ったが、そもそもは経済・金融分野のエキスパートであり、その手腕が何らかの形で生かされる可能性はある。

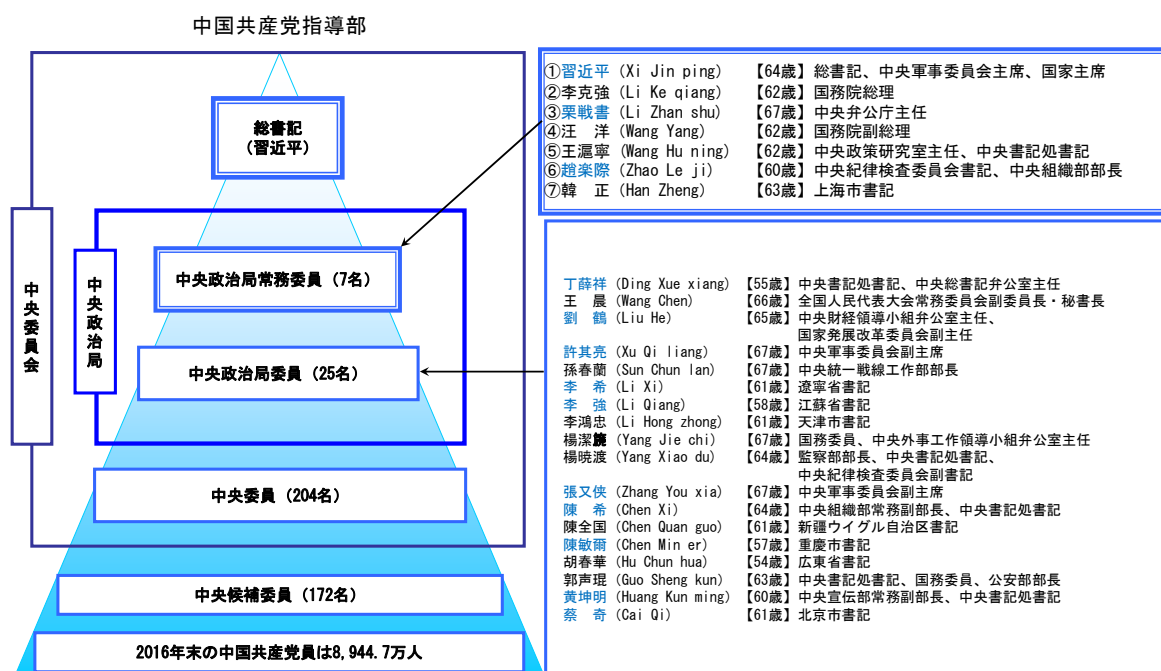
習近平総書記の信頼が厚い陳敏爾・重慶市書記（57歳）の中央委員から政治局常務委員への2階級特進も、胡錦濤・前総書記の後ろ盾があるとされる胡春華・広東省書記（54歳）の政治局委員から政治局常務委員への昇格も見送られた。両氏は年齢的には、今後5年間政治局常務委員を務めた後に、総書記を2期10年務めることが可能であったが、「ポスト習近平」に名乗りを上げることはできなかった。「ポスト習近平」の不在は、今後、習近平総書記が内規の引退年齢引き上げを根回しし、3期目続投を図るための布石であるのかもしれない。

中国共産党最高指導部である中央政治局常務委員7名の序列と氏名、年齢、役職等、政治局委員の氏名、年齢、役職等は下図の通りである。

政治局常務委員では、習近平氏と李克強氏は留任、他の5名は政治局委員からの昇格であった。7名のうち、習近平氏に近いのは栗戦書氏、趙樂際氏（王岐山氏の後任として中央紀律検査委員会書記に就任）、胡錦濤・前総書記（共青团）に近いのは李克強氏、汪洋氏であり、韓正氏は江沢民・元総書記の地盤である上海市での勤務経歴が長い。王滬寧氏は江沢民・元総書記、胡錦濤・前総書記、習近平総書記の3代の総書記に仕えた理論面のブレーンである。今回の政治局常務委員人事は、バランスが重視されたとの評価が可能であろう。

「習近平思想」が党規約に行動指針として明記され、習近平総書記は別格の存在となったことで、トップダウン型の「決められる政治」が行われ、改革が着実に進むとの期待は高まる。この権力が暴走しないための抑止力として、政治局常務委員会が果たす役割は極めて大きい。政治局常務委員会は週1回程度開催され、重要政策や幹部人事の方針を決めるとされる。常務委

中国共産党新指導部



(注) 中央委員、中央候補委員の人数は、2017年10月の第19回共産党大会における選出時のもの。中央政治局委員の中に中央政治局常務委員(7名)が含まれる。年齢は第19回党大会が開催された2017年10月時点。人物の青字は習近平総書記に近いとされる人物。役職は2017年10月25日時点

(出所) 新華社などより大和総研作成

員のバランスが取れたことで、少なくとも様々な背景を持つメンバーが意見を出し合う場は確保されたのだが、それが十分に機能するかは、また別の問題である。習近平氏は、中国にとって最大の牽引力にもなり得るし、最大のリスク要因にもなり得るといふことなのであろう。

経済政策面では劉鶴氏が重要な役割か？

2018年3月の全国人民代表大会（全人代）で国務院（内閣）の人事が確定し、習近平政権の2期目が本格的に始動する。李克強氏が首相に留任する可能性が高いが、経済面で注目されるのは、習近平総書記の経済ブレーンである劉鶴氏の処遇である。劉鶴氏は、現在は国家発展改革委員会副主任の地位にあるが、今回の党人事では、国家発展改革委員会主任である何立峰氏を飛び越えて、政治局委員に抜擢された。

劉鶴氏は、2013年11月の中国共産党第18期中央委員会第3回全体会議（三中全会）が採択した、「改革を全面的に深化させるための若干の重要問題に関する中央委員会の決定」を起草した中心メンバーであるといわれている。今後の改革の青写真を描いた「決定」は、国有企業改革などで踏み込み不足である点は否めないものの、政績（政治的な成績）表評価項目の重点を変更し、過剰生産能力と新規債務増加の抑制、さらには人々の健康状態を政績表評価項目の重点に加えるといった、持続可能な成長を目指した政策を打ち出すなど、ポジティブに評価できる面も多かった。

劉鶴氏は市場を重視する改革派と目されており、上記「決定」では、「市場が決定的な役割を果たす」ことが謳われた。しかし、現実には規制強化や監督・管理の強化によって、市場を抑え込む政策が多くなっている。例えば、元安抑制を目的に資本移動の自由を抑制し、海外 M&A の規制をしたほか、金融機関のデレバレッジを推進するといった監督・管理の強化は記憶に新しい。

ちなみに、規制強化や監督・管理の強化は様々な分野に及んでいる。2017年6月1日に施行された「インターネット安全法」は、ネット空間の安全や個人の権益保護が目的とされているが、実態はネット規制の強化である。この結果、ネットでの政治的な発言だけでなく、様々な分野の発言が規制されるようになっている。例えば、党大会を控え、株価の上昇や下落を煽るような発言は瞬時に削除され、「19大（第19回党大会）+暴落（あるいは暴騰）」といったキーワードは検索ができない状況であった。

規制強化や監督・管理の強化は短期的な効果はあっても、中長期的には経済の勢いを削ぎかねない諸刃の剣である。今後は、力づくで市場を抑え込むための規制や監督・管理の濫用を回避し、「漸進」的に市場に任せていくことが求められよう。こうした課題に、2期目の習近平政権がどう取り組んでいくのか、その中で、劉鶴氏がどのような役割を担い、政策を実行していくのか、大いに注目されよう。

(参考) 政治局常務委員の略歴 (序列 1 位～3 位)

習近平氏の略歴

生年	1953年6月 (64歳)	原籍 陝西省 (父親は習仲勳・元國務院副総理。太子党と呼ばれる既得権益グループの代表格)
学歴	1975年～1979年 1998年～2002年	清華大学化学工学部 清華大学人文社会学院大学院
略歴	1974年1月 1969年～1975年 1979年～1982年 1982年～1985年 1985年～1995年 1995年～1996年 1996年～1999年 1999年～2000年 2000年～2002年 2002年 2002年～2003年 2003年～2007年 2007年 2007年～2008年 2008年 2010年～2012年 2012年～2013年 2013年～2014年 2014年～	中国共産党入党 陝西省で勤務経歴を積む 國務院弁公庁・中央軍事委員会弁公庁で勤務経歴を積む 河北省で勤務経歴を積む 福建省で勤務経歴を積む 福建省副書記、福州市書記、福州市人民代表大会常務委員会主任兼福州市軍分区第一書記 福建省副書記 福建省副書記、省長代行兼南京军区国防動員委員会副主任、福建省国防動員委員会主任 福建省副書記、省長兼南京军区国防動員委員会副主任、福建省国防動員委員会主任 浙江省副書記、省長代行兼南京军区国防動員委員会副主任、浙江省国防動員委員会主任 浙江省書記、省長代行兼浙江省军区第一書記、南京军区国防動員委員会副主任、浙江省国防動員委員会主任 浙江省書記、省人民代表大会常務委員会主任兼浙江省军区第一書記 上海市書記兼上海警備区第一書記 中央政治局常務委員、中央書記処書記、中央党校学長 中央政治局常務委員、中央書記処書記、国家副主席、中央党校学長 中央委員会総書記、中央軍事委員会主席、国家副主席、国家中央軍事委員会副主席 中央委員会総書記、中央軍事委員会主席、国家主席、国家中央軍事委員会主席 中央委員会総書記、中央軍事委員会主席、国家主席、国家中央軍事委員会主席、中央国家安全委員会主席

(出所) 新華社などより大和総研作成

李克強氏の略歴

生年	1955年7月 (62歳)	原籍 安徽省
学歴	1978年～1982年 1988年～1994年	北京大学法学部 北京大学经济学院大学院
略歴	1976年5月 1974年～1978年 1982年～1983年 1983年～1985年 1985年～1993年 1993年～1998年 1998年～1999年 1999年～2002年 2002年～2003年 2003年～2004年 2004年～2005年 2005年～2007年 2007年～2008年 2008年～2013年 2013年～	中国共産党入党 安徽省で勤務経歴を積む 北京大学共産主義青年団委員会書記 共産主義青年団中央学校部部長兼全国学生連合会秘書長、共産主義青年団中央書記処書記候補 共産主義青年団中央書記処書記兼全国学生連合会副主席 共産主義青年団中央書記処第一書記兼中国青年政治学院院长 河南省副書記、省長代行 河南省副書記、省長 河南省書記、省長 河南省書記、省人民代表大会常務委員会主任 遼寧省書記 遼寧省書記、省人民代表大会常務委員会主任 中央政治局常務委員 中央政治局常務委員、國務院副総理 中央政治局常務委員、國務院総理

(出所) 新華社などより大和総研作成

栗戰書氏の略歴

生年	1950年8月 (67歳)	原籍 河北省
学歴	1971年～1972年 1980年～1983年 1996年～1998年	河北省石家庄地区財貿学校 河北師範大学 (夜間) 政教学部 中国社会科学院研究生院財貿易学部 (修士)
略歴	1975年4月 1972年～1998年 1998年～2002年 2002年～2003年 2003年～2004年 2004年～2007年 2007年 2008年～2010年 2010年～2012年 2012年 2012年 2013年～2017年 2017年10月～	中国共産党入党 河北省で勤務経歴を積む (1986年～1990年は共青团河北省書記) 陝西省で勤務経歴を積む (西安市書記など) 陝西省副書記、西安市書記、市人民代表大会常務委員会主任 黒龍江省副書記 黒龍江省副書記、副省長、省行政学院院长 (2006年～2007年) 黒龍江省副書記、省長代行 黒龍江省副書記、省長 貴州省書記、省人民代表大会常務委員会主任 中央弁公庁副主任、中央弁公庁主任、中央直屬機關工作委員会書記、貴州省人民代表大会常務委員会主任 中央政治局委員 (2階級特進)、中央書記処書記、中央弁公庁主任、中央直屬機關工作委員会書記、貴州省人民代表大会常務委員会主任 中央政治局委員、中央書記処書記、中央弁公庁主任 中央政治局常務委員、中央弁公庁主任

(出所) 新華社などより大和総研作成

(参考) 政治局常務委員の略歴 (序列 4 位～7 位)

汪洋氏の略歴

生年	1955年3月 (62歳)	原籍 安徽省
学歴	1979年～1980年 2001年	中央党校理論宣傳幹部班政治経済学部 中央党校省部級幹部進修班
略歴	1975年8月 1972年～1993年 1993年～1998年 1998年～1999年 1999年～2003年 2003年～2005年 2005年～2006年 2006年～2007年 2007年～2012年 2013年～2017年 2017年10月～	中国共産党入党 安徽省で勤務経歴を積む 1983年～1984年は共青团安徽省委員会副書記 安徽省副省長 安徽省副書記、安徽省副省長 国家発展計画委員会副主任・党組織メンバー 國務院副秘書長・機關党組織副書記 重慶市書記 重慶市書記、市人民代表大會常務委員会主任 中央政治局委員 (中央候補委員から特進)、広東省書記 中央政治局委員、國務院副總理 中央政治局常務委員、國務院副總理

(出所) 新華社などより大和総研作成

王滬寧氏の略歴

生年	1955年10月 (62歳)	原籍 山東省
学歴	1972年～1977年 1978年～1981年 1988年～1989年	上海師範大学幹部学校外国語養成班 復旦大学国際政治学部 (修士) 米国留学
略歴	1984年4月 1977年～1978年 1981年～1995年 1995年～1998年 1998年～2002年 2002年～2007年 2007年～2012年 2012年～2017年 2017年10月～	中国共産党入党 上海市出版局 復旦大学で教師、副教授、教授、復旦大学法学院院長を歴任 中央政策研究室政治組組長 中央政策研究室副主任 中央政策研究室主任 中央書記処書記、中央政策研究室主任 中央政治局委員、中央政策研究室主任 中央政治局常務委員、中央書記処書記、中央政策研究室主任

(出所) 新華社などより大和総研作成

趙楽際氏の略歴

生年	1957年3月 (60歳)	原籍 陝西省
学歴	1977年～1980年	北京大学哲学学部
略歴	1975年7月 1974年～1994年 1994年～1997年 1997年～2000年 2000年～2003年 2003年 2004年～2007年 2007年 2008年～2012年 2012年 2013年～2017年 2017年10月～	中国共産党入党 青海省で勤務経歴を積む 青海省副省長 青海省副書記・副省長 (1999年からは省長代行) 青海省副書記・省長 青海省書記 青海省書記・省人民代表大會常務委員会主任 陝西省書記 陝西省書記・省人民代表大會常務委員会主任 中央政治局委員、中央書記処書記、陝西省書記・省人民代表大會常務委員会主任 中央政治局委員、中央書記処書記、中央組織部部長 中央政治局常務委員、中央紀律検査委員会書記、中央組織部部長

(出所) 新華社などより大和総研作成

韓正氏の略歴

生年	1954年4月 (63歳)	原籍 浙江省
学歴		華東師範大学国際問題研究所、経済学修士、高級エコノミスト
略歴	1979年5月 1975年～2002年 2002年～2003年 2003年～2006年 2006年～2007年 2007年～2012年 2012年 2012年～2017年 2017年10月～	中国共産党入党 上海市で勤務経歴を積む。うち1991年～1992年は共青团上海市書記 上海市副書記、副市长 上海市副書記、市長 上海市書記代理、市長 上海市副書記、市長 中央政治局委員、上海市副書記、市長 中央政治局委員、上海市書記 中央政治局常務委員、上海市書記

(出所) 新華社などより大和総研作成